

## 平成30年度第2回奈良県総合教育会議 = 議事概要 =

日時：平成30年10月18日

場所：奈良県文化会館 集会室A B

### 議題 教育・文化の振興と学力の向上について

#### (1) 奈良県教育振興大綱の平成29年度進捗状況について

##### <資料1について説明> (谷垣地域振興部次長)

- ・(1ページについて) 教育振興大綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて、「教育の振興に関する総合的な施策の大綱」として、平成27年度末に策定した。「基本理念と目指す人間像」を実現させるために、15の施策の方向性を示している。さらに、その進捗を測るために、119の重要業績評価指標(KPI)を設定している。
- ・(2ページについて) 平成29年度のKPI全体の進捗状況については、「目標達成」「目標値との差が縮小」の割合が合わせて51.3%と半数を超えているが、「目標との差が拡大」の割合は32.8%となっている。
- ・施策の方向性別の進捗状況としては、②学ぶ力と意欲を伸ばし、豊かな人間性を育む学校教育の推進、③高等学校教育の質の向上、⑤特別なニーズに対応した教育の推進、⑬意欲ある全ての者への学習機会の確保、の4つの方向性については、向上の傾向が強く出ている。一方、⑨人権教育の推進、⑮安心・安全で質が高い教育環境の整備の2つについては、「目標値との差が拡大」の割合が相対的に高くなっている。
- ・(3ページについて) 児童生徒の学習意欲に関する項目と教職員の資質に関する項目の関係性に着目した。「授業の内容がよくわかる」と回答した児童生徒は増加し

ており、学力の数値も向上している。しかし、「授業時間以外に全く勉強しない」と回答した割合が全国平均と比較して高く、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が低くなっている。その要因として、授業時間以外の学習時間（塾等を含む）が「3時間以上」と「全くしない」と回答する児童生徒の割合が全国平均と比べて高く、二極化の傾向が見られる。また本県の児童生徒は通塾率が高く、授業時間以外の学習時間が「1時間以上」と回答した生徒の割合と「塾に通っている」と回答した生徒の割合がほぼ一致していることから、「授業の内容がよくわかる」と回答する子どもの割合が増加しているにもかかわらず、学校で学んだことを家庭学習で定着させることができない子どもが一定数存在しているのではないかと分析をしている。このような状況を踏まえ、「児童生徒が学校で学んだ知識や技術等を定着させるよう、主体的に学習に取り組む意欲や態度を向上させるために必要なこと」について、ご意見を伺いたい。

- ・（4ページについて）次に児童生徒の規範意識に関するK P Iについて着目した。「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」と「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的に回答する割合は、小学校から中学校にかけて低下しているが、その下降幅は全国よりも大きい。これは、本県中学生の家庭や地域の人と過ごす時間や機会の少なさが要因の1つと分析している。今後の方向性として「地域の教育力の向上」をあげているが、特に中学校における規範意識の向上のために必要なことについて、ご意見を伺いたい。
- ・児童生徒の体力に関する項目で、特に小学5年生女子に注目すると、体力の合計点は全国との差はさほどないものの、運動嫌い、運動量が少ない、朝食を食べない、肥満傾向のそれぞれの割合が増加している。これは健やかな体を育成する意識が足りないことや、生活習慣が夜型となり睡眠不足や遅い夕食などが朝食の欠食の増加につながっていることなどが考えられる。また「体を動かす楽しさ」を

体感させることも必要と考えられる。これらのことを踏まえて、小学生女子に対する運動や生活習慣に関する指導について、ご意見を伺いたい。

- ・教育振興大綱は適用期間が4年間であり、平成31年度が最終年度である。来年度改訂作業を行う。本日のご意見を踏まえ、着手していくが、今後も引き続き、ご意見をいただきながら、よりよい教育振興大綱をつくっていきたい。

## **(2) 奈良県文化振興大綱の平成29年度進捗状況について**

### **<資料2について説明> (桐田文化振興課長)**

- ・(1ページについて) 奈良県文化振興大綱は文化芸術基本法、教育基本法並びに地方教育行政法に基づき平成29年3月に策定した。適用期間は概ね5年間と設定。
- ・個性あふれる文化振興施策を進めるために、奈良県の強みである「歴史文化資源活用分野」と「芸術文化振興分野」に力点を置いている。
- ・文化振興大綱の構成は、分野ごとに、現状と課題、文化振興施策の方向性、施策の展開とあわせ、施策の実施にかかる7つの目標と12の指標を示している。
- ・本日の会議では、PDCAサイクルの実施に関する「評価・検証」の部分についてご意見をいただきたい。
- ・(2ページについて) 成果(行動)目標の12指標のうち、「目標達成」または「よくなっている」指標が、8指標となっている。特に成果目標2「県民が、地域の文化的環境に対して満足している状態の実現」や、成果目標3「県民が、文化芸術の鑑賞活動や創作活動等を盛んに行っている状態の実現」については、前年度と比較して、ほぼ全ての項目においてよくなっており、目標達成に向け順調に推移している。
- ・一方、成果目標1「県民が、歴史を通して地域の文化への理解を深め、奈良県や身近な地域への愛着を感じている状態の実現」や 成果目標4「奈良県の歴史や芸

術の魅力をもととして、訪問や周遊、観光が盛んに行われている状態の実現」については、前年度より悪化している項目が多い。

- ・歴史文化資源活用分野においては、郷土愛の醸成や情報発信の強化が課題であり、歴史文化資源に触れ、学び、理解する機会の創出、交流・人材育成に向けた取組が今後も必要である。
- ・芸術文化振興分野においては県民意識の醸成や情報発信力強化が課題であり、地域や世代間で差が生じていることから、これらを解消するための取組が必要である。
- ・芸術文化活動の活性化も課題であり、伝統行事等へ参加する芸術文化活動を行う者への支援や人材育成が必要である。
- ・(3・4ページについて) 特に進捗状況の芳しくなかった成果目標1と4について、既に実施している取組、新たな取組ごとに、課題や今後の方向性を整理している。本日は各取組の「実現に向けて懸案となる事項」についてご意見をいただきたい。例えば、「小中学校での郷土学習の推進」については、生徒の興味・関心を引くために、内容のブラッシュアップはどのようにすればよいのか、郷土学習の実践のためのノウハウをより多くの指導者に広めるためにはどうしていけばよいのか、などについてご意見をいただきたい。
- ・また、「ムジークフェストなら」については、多くの方が来場していただいているという成果はあるが、どのようにすれば若年層に対し関心を持たせることができるのか。また、県中南部東部の参加を促進するためにはどのようにすればよいのか、についてご意見をいただきたい。
- ・5ページ以降には、全ての項目について詳細に取組内容を示してある。

### (3) 学力の向上について

#### <資料3について説明> (吉田教育長)

- ・今年度は調査に参加した私立学校のデータも掲載している。
- ・(1・2ページについて) 小学生の学力については、公立と私立では(国語・算数とも)知識の分野で12ポイントの差が、また算数B(活用)で15ポイントの差がある。中学生の数学B(活用)については、公立と私立では非常に大きな差になっている。また、平成26年度から公立の小・中学校ともに都道府県別順位が下降傾向になっている。
- ・(3ページについて) 小学生・中学生の国語A・B、算数・数学A・Bの4教科の相加平均の奈良県の都道府県別順位は、小学生は39位、中学生は26位となっている。昨年と同様に、石川県・秋田県・福井県が上位である。
- ・(4ページについて) 小学6年生の平均正答率が全国平均を上回っている団体は、市部では12団体のうち2団体、郡部では25団体のうち9団体である。中学3年生で全国平均を上回っているのは、市部では12団体のうち3団体、郡部では27団体のうち11団体である。なお、児童・生徒数が3人以下の団体は非表示としている。
- ・(5ページについて) 平成29年度から30年度にかけて、学力状況の団体別変化を示している。グラフの4つの象限のうち右上が29年度・30年度ともに全国平均を上回っている団体で、左上が29年度から30年度で大きく伸びている団体である。2年連続で全国平均を上回っている市は、小・中学生ともに2団体ある。中学生で大きく伸びている団体があるが、これは人数の少ない団体である。
- ・(6ページについて) 小学生の学習意欲について示しているが、平成30年度の調査では国語の学習意欲の調査は実施されていないので、国語については平成29年度の状況を掲載している。文部科学省では「勉強が好き」「勉強は大切」「授業

の内容がよくわかる」「授業で学習したことは将来社会に出た時に役に立つ」を学習意欲を測る項目としている。このレーダーチャートには、奈良県の平均、学力全国1位の石川県及び奈良県の私立学校の平均を掲載している。「国語が好き」「算数が好き」という項目で、奈良県と全国平均や石川県との差が非常に大きい。

- 平日の学習時間について、奈良県は1時間より少ないという児童が多く、石川県では1～2時間という児童が多い。奈良県の私立の小学生は2時間以上学習している児童が60%を超えている。
- (7ページについて) 中学生の学習意欲について示しているが、「国語が好き」「数学が好き」「数学は役に立つ」という項目が、全国学力1位の福井県や全国平均と比べて差が大きい。奈良県の公立と私立を比較すると、「国語が好き」では公立が上回り、「数学が好き」では私立が上回っている。
- 平日の学習時間について、福井県では1～2時間という生徒が多いが、奈良県では二極化傾向が続いている。また、私立より公立の方が学習時間が長い傾向がある。
- (8ページについて) 平成29年度の学習意欲に関する8項目の肯定的割合の相加平均を都道府県別に高い順に示している。
- (9ページについて) 平成29年度の学習意欲に関する8項目の肯定的割合の相加平均を団体別に示している。
- (10ページについて) 小学生の算数の学習意欲に関する項目と平均正答率の関係を見たものである。「算数の授業がよくわかる」と算数Aの平均正答率には強い関係があることがわかる。
- (11ページについて) 中学生の数学の学習意欲に関する項目と平均正答率の関係を見たものである。小学生と同様の傾向となっている。
- (12ページについて) 規範意識の状況を掲載している。「学校のきまり・規則を

守る」という項目では全国平均や全国1位の秋田県との差が大きくなっている。また、中学生では私立の方の差が大きくなっている。

- ・(13ページについて) 規範意識に関する3項目「学校のきまり(規則)を守る」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」の肯定的割合の相加平均を都道府県別に値の高い順に並べている。奈良県は小学生・中学生ともに低位にある。
- ・(14ページについて) 規範意識に関する3項目について肯定的割合の相加平均を団体別に示している。
- ・(15ページについて) 個人データから、学力の上位10%と下位10%の層を抽出し、グループ別に質問紙調査結果の傾向を分析した。学力低位のグループはレーダーチャートの1番内側に位置し、全ての項目で全国平均を下回っている。特に「読書は好き」と「自分で計画を立てて勉強をしている」の項目において、その差が顕著である。
- ・(16・17ページ) テレビ・ビデオ・DVDやゲームや携帯電話やスマートフォンの利用時間と学力の平均正答率の関係を示すものである。4時間以上メディアに依存するヘビーユーザーの割合が学力下位10%に非常に多く存在する。自分自身の時間の使い方をマネジメントしていく力の差が、学力に影響しているのではないか。

### <各委員・顧問からの意見要旨>

(学習意欲の向上)

- ・就学前段階からの取組と小学校・中学校への接続が必要。さらに、就学前教育の必要性について保護者と意識を共有すること。
- ・学校では、学力・学習状況調査結果を受けてのPDCAサイクルが機能していない

のではないか。

- ・奈良県の子どもは通塾率が高いとのことだが、家庭の貧困が理由で塾にも行けない子どもへの対策ももっと必要ではないか。
- ・子どもにとっては、テストの点数が全てになっている。しかし、学校の成績は良くても、例えば木の高さや岩の大きさを三角比を使って測るなど、知識を実生活に活かすことをあまり知らない。校外で学ぶ機会を作ってあげるべき。都市部と山村部との交流により、「勉強は楽しい」という経験を作ってあげるべきではないか。
- ・子どもが、学校で得た知識を「使う機会」がない。知識をどう使えるかを教えるべき。
- ・学校の先生は、先生にも分からないことがたくさんあることも教えるべき。知識を丁寧に教えることに注力しすぎではないか。
- ・学校の先生だけで全てを教えることはできない。外部の様々な人の力を借りながら子どもに教えていけばよい。地域の文化財のことなら学芸員、学習指導要領で重視されている科学の実験なら、方法を習得していない先生にとっては危険なので、実験技術のある人など、いろいろな人の協力を得てやればよい。
- ・先生は、子どもに対してテストの点数だけではなく「その子ができること」を見い出してほめてあげることが必要。ほめることで学習意欲が増すだけでなく、その子の存在価値を他の子に認識させることにもなり、クラスの中でのいじめの防止や規範意識の醸成にもつながる。子ども一人一人には特徴があって個性がある。先生は、子どものできないことをとりあげるのではなく、得意なことを伸ばし、良いところを大事にする意識を持つべき。
- ・子どもにとって学校や勉強が楽しくなるようになってほしい。



(規範意識)

- ・奈良県は、三世代世帯が少ない。子どもが大人から規範を学ぶ機会がなくなっている。数値の良い東北や北陸の県は、まだ昔のような三世代世帯が多いのではないか。
- ・地域の高齢者を巻き込み、子どもに読み聞かせなどをするような機会づくりが必要。
- ・教員の働き方改革も必要で、先生が余裕を持って子どもと向き合う時間を確保しなければならない。
- ・学校の規則が、子どもが守れないような細かすぎる内容になっていないか。昔とは違って、押し付けではなく、子どもの気持ちも汲み取りながら規則を決めていく時代ではないか。

(女子の運動習慣・生活習慣)

- ・小学5年生の女子は、ちょうど生理が始まりホルモンバランスが変化することで、体型が変わる時期。身体が太くなるのを気にして食事を控えても、そのストレスでまた食べ過ぎたりする。保健・養護の先生が授業や指導で、身体の変化について子どもに理解させるような保健指導が必要。
- ・都市部の小学校は、朝食を食べてこない子どもが多い。また、その日の朝食を聞くと「ドーナツ」と答える子どもがおり、保護者が子どもに「これが朝食」と言われて食べさせていると思われる。学校で朝食を用意する取組をしたことがある。その時に、食材などを説明すると、子どもたちがいろんなことに興味を示した。家で食事を材料から作らなくなり、ファストフードなどを買ってくるが多くなっていることも要因。

(文化)

- ・ベッドタウンには、地域の中に地場で育った人が少ないため、その地域本来の文化を伝えられないという問題がある。
- ・「ムジークフェスト」については、当初は北和を中心に開催されていたが、最近では中南和地域でも開催されている。奈良県全体でこのような行事を実施していけば、大綱の目指す方向に進んでいくのではないかな。
- ・ある時学校で、子どもたちに「この仏像は大英博物館で展示される」というと、すごいものであると認識して非常に興味を持ち、次々と質問をしてきた。
- ・奈良には、実は価値の高い文化財がたくさんある。子どもは必ず興味を持つので、地域の文化財について、その背景やエピソードを読み聞かす機会を作ることが重要。新聞への掲載だけでは、なかなか浸透しないのではないかな。

## <振り返り>

### ○教育長

- ・規範意識の醸成について、教員が「上から目線」ではなく子どもの気持ちを汲み取るように接するべき。
- ・学力と「読書好き」の関連が強いデータが出ているが、教育委員会として読書活動の推進に注力していくべきと考える。
- ・郷土学習の手引を作ったので、小・中学校の学校現場で活用し、「奈良を愛して、奈良を考える」ような子どもを育てたい。
- ・教員への教育については、「ケースワーカーの100の心得」に倣って、「奈良県教育の50の心得」のようなものを作成したいと考えている。
- ・私立の児童生徒は、小学生で「国語が好き」、中学生で「数学が好き」の数値が高い。このことから、授業など私立学校を参考にすべき点もあるのではないかな。

○知事

(学習意欲)

- ・「先生に聞けば全て分かる」という幻想を取り除き、むしろ分からないことを子どもに問いかけることで、探究心を育てられるのではないか。
- ・市町村教育長や教育現場における、統計結果の受け止め方が重要。
- ・教室の中だけが教える場ではない。校外での教育がないといけない。

(規範意識)

- ・奈良は何故、小学校から中学校にかけての肯定的回答の減少幅が大きいのか。原因を教えて欲しい。
- ・統計を教育にどのように活かしていくのかが課題。
- ・教員に対する教育をどうするのかも課題だと考えている。
- ・「利他心」といった、他人を認める意識があれば、いじめは起こらないはず。教育の行動経済学、アンガーマネジメントを取り入れた教育の実践等の研究も必要ではないか。
- ・アメリカの学校での生徒へのほめ方や、アンガーマネジメントなど、海外から学べることはたくさんある。
- ・子どもたちに「希望の予感」を感じさせるようにするにはどうすればいいか。
- ・資料や物、時間をうまく整理（分類）できるようになれば、成績も良くなるのではないか。

(生活習慣)

- ・朝食の給食を、全員ではなく申請主義で実施できないか。フランスでは、学校給

食は希望者のみ。日本のように一律提供ではない。

(文化)

- ・奈良には他に無い価値ある物がたくさんあることに気づいて欲しい。
- ・教員と地域活動との関わりも重要。教員が地域のことを知れば、子どもに話しやすい。

(その他)

- ・文化財を保存と活用の両面で考える趣旨を国が言っているが、本県では数年前から文化資源活用課を作り取り組んでいる。
- ・文化の振興については、今後「文化芸術振興条例」の制定を検討したい。
- ・教育振興は、「教育振興条例」を考えてみたいが、これは今後の課題。
- ・教育・文化の大綱を作ったが、これまでは、課題の抽出、地域差異の統計分析などをしてきた。次は、実行は教育委員会の判断になるが、教育委員会に対して教育内容や教員への教育についても提言をしていきたい。